

2025年度 法科大学院

第5期入学試験問題

4 時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(論文式)

試験時間合計 80 分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙は2種類あり、それぞれ解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従って正しく記入してください。
5. 必ず「民事訴訟法」の解答は「民事訴訟法」の解答用紙に、「刑事訴訟法」の解答は「刑事訴訟法」の解答用紙に、記入してください。また、解答用紙の解答欄に記入してください。解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

Xは、Yから、中古自動車を買ひ、代金100万円を支払った。ところが、Yが代金を受け取っていないと述べるので、Xは、Yを被告として売買代金100万円の債務不存在確認の訴え（以下「本訴」という。）を提起した。

これに対し、Yは、Xが提起した訴訟において、Xを反訴被告として売買代金100万円の支払を求める反訴を提起した。

この設例につき、次の問いに解答しなさい。

問1 Yが提起した反訴は、重複起訴の禁止に違反するか。

問2 売買代金100万円の支払債務が存在するとの心証を抱いた場合、裁判所は、本訴、反訴のそれぞれにつきどのような判決をするべきか。

[刑事訴訟法]

K警察官らは、M社が覚醒剤を密売しているとの情報を得て内偵捜査を進めていたところ、M社が暴力団関係者Nから宅配便で覚醒剤を仕入れているとの情報を得たことから、宅配便業者L社の承諾を得て、配達前のM社宛ての荷物（以下、「同荷物」という）を借り受けた上、エックス線検査（以下、「本件エックス線検査」という）を行った（なお、本件エックス線検査につき、荷送人Nや荷受人M社の承諾は得ていなかった）。その結果、同荷物内に、細かい固形物が均等に詰められている長方形の袋の射影が確認された。K警察官らは、同荷物を宅配便業者L社に返却し、同荷物は通常の運送過程下に戻り、M社事務所に配達された。

K警察官らは、本件エックス線検査の写真を資料の一つとして、M社事務所の搜索差押許可状の発付を受け、同許可状に基づく搜索により、同荷物中の覚醒剤を発見し、これを差し押さえた。

[設問]

本件エックス線検査が適法か違法かを説明しなさい。